

(第3回変更) 契約変更の内容

|          |  |
|----------|--|
| 契約変更年月日  | 令和 8年 3月 6日  |
| 契約業者名    | (一財) 阪神高速先進技術研究所   |
| 契約業者の住所  | 大阪府大阪市中央区南本町4-5-7  |
| 業務の名称    | 阪速高速道路ネットワークモデルの実務適用等に関する検討業務(その3)   |
| 業務場所     |  |
| 業務種別     | 土木設計   |
| 業務概要     | 打合せ・資料作成1式→1式<br>地震シミュレーションの実務適用に向けた検討1式→1式<br>地盤応答解析に関する検討1式→1式<br>長大橋における耐震性評価1式→1式<br>光ファイバセンシングの適用性検討1式→1式<br>報告書作成1式→1式 |
| 業務期間(自)  | 令和 6年 5月 11日   |
| 業務期間(至)  | 令和 8年 6月 19日   |
| 契約金額     | 71,511,000 円   |
| 変更金額     | 6,017,000 円 増  |
| 変更後の契約金額 | 77,528,000 円   |
| 変更理由     | 別紙のとおり   |

※金額は、税込みである。

## 変更契約理由書

阪速高速道路ネットワークモデルの実務適用等に関する検討業務（その3） 第3回変更

### （1）表層地盤モデル改良による効果検証の追加

過年度業務「阪速高速道路ネットワークモデルの実務適用等に関する検討業務（その2）」において南海トラフ地震動を用いた地震シミュレーションを実施している。本業務では、シミュレーション結果の分析を実施し、主な課題であると判明した表層地盤モデルについて、改良方法を提案し、その妥当性の確認を行った。検討を進める中で、提案した改良方法を今後全線モデルへ展開するにあたり、その効果を検証する必要が生じた。よって、表層地盤モデル改良による効果検証を本業務に追加する。

### （2）南海トラフ地震に対するリスク評価書の作成の追加

過年度業務「阪速高速道路ネットワークモデルの実務適用等に関する検討業務（その2）」において実施した南海トラフ地震動を用いた地震シミュレーションの結果について、実務での活用を想定して、南海トラフ地震に対するリスク評価書として取りまとめることとしたため、シミュレーション結果の整理および分析、リスク評価書の作成を本業務に追加する。

### （3）全路線シミュレーション結果分析の削除および地震動作成に関する変更

当初、別途業務等で行う全路線シミュレーションの実施にあたり、シミュレーションで用いる地震動作成およびシミュレーション結果の分析を本業務で行うこととしていた。しかし、（1）で追加する表層地盤モデル改良による効果検証を優先して実施する必要が生じたため、本業務期間内において全路線シミュレーションを実施しないこととした。よって、シミュレーション結果の分析を本業務より削除する。また、地震動作成を（1）の検討で使用する深層地盤解析までに変更し、表層地盤解析を削除する。

#### 4) 長大橋の耐震性評価における鋼製橋脚のプッシュオーバー解析の追加

年度検討において、港大橋の端部鋼製橋脚で圧縮降伏を超えるひずみが確認された。本業務では、アプローチ橋の影響を考慮した解析による再評価を行ったが、依然として圧縮降伏を超過する結果となった。よって、シェルモデルを用いた鋼製橋脚のプッシュオーバー解析により耐荷性を評価することとしたため、本業務に追加する。

#### 5) 業務期間の変更

1) ～ (4) の検討のため、業務期間を約3か月間延長する。

以上